

I C T 駆使 災害乗り越え

災害時にさまざまなICT（情報通信技術）を駆使する方法を学んだ子どもたちによる発表会が29日、熊本市西区の崇城大IoT・AIセンターであり、避難経路を分かりやすく伝えたり、救済物資を円滑に行き渡らせたなどの学習成果を披露した。

県内有志で設立した一般社団法人「SCBラボ」などが1日、総務省の事業を受託して講座を開講。防災プログラム（5回）とクラウド活用防災（4回）の2コースに小学2年～高校2年の計60人が参加した。

参加者は、熊本地震で拡散した「ライオンが逃げた」という画像を、グーグルの画像サービースを使ってデマと判断する手法や、センサーを使って火災を感知し、安全な避難経路を矢印で自動表示するプログラムといった成果を発表。熊本市西高2年の大塚悠斗さんは「災害はひとことではない。幅広い参加者と交流できて刺激を受けた」と話した。

（大路秀紀）

安全な避難表示、救済物資円滑に…

プログラム学習 成果発表

県内小中高生



ドライヤーで温度を上げた模擬火災を感知し、自動で最短の避難経路を矢印で示すプログラムを実演する中学生＝熊本市西区